

上：大師堂方面を見た中在所集落（大正初期）　〔写真提供：上村修一氏〕

下：向山方面を見た中在所集落（大正初期）　〔写真提供：上村修一氏〕

明治初期の石徹白は 200 戸ありました。昭和 25 年の石徹白の世帯数は 250 世帯、平成元年は 137 世帯、平成 12 年は 129 世帯です。

明治初期から昭和 30 年代にかけての 100 年間には、北海道移民、日清・日露、第一次・第二次世界大戦での出征、そして越県合併による^{さつら}三面・^{こたんどう}小谷堂集落の分離という、人口が減少する大きな出来事が続きましたが、200 世帯～250 世帯の間で世帯数は維持されていました。

しかし、昭和 40 年代の高度経済成長期を境に、石徹白から都市部へ人々が流出、人口は一気に減少していきました。

写真は、大正初期の中在所集落の様子ですが、いまよりずっと多くの家数が確認できます。

※ 世帯数等については、上村俊邦著『いとしろに暮らした人たち』に依りました。